

2023年度

学生募集要項

松山大学大学院
医療薬学研究科
医療薬学専攻

博士課程

2023 年度

松山大学大学院 医療薬学研究科 学生募集要項

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

本学の「校訓三実」である「真実」、「実用」、「忠実」の理念に則り、学部教育で培われた臨床薬学・医療薬学および基礎薬科学・生命科学を基盤として、高度な専門性をもって患者に最適の薬物治療を提供できる人材、薬物を適正に使用する上で生じる問題を科学的・社会的に解決できる人材、さらに薬学研究者の視点から病態や薬物作用機序の解明に取り組める人材を養成することを目的としている。この目的を達成するために医療薬学研究科では、次のような大学院生を求める。

- 薬剤師としての基本的知識や実技能力を有している
- 科学的探究心をもとに臨床薬学・医療薬学分野における問題発見能力と問題解決能力の獲得に熱意を持つ
- 深い人間愛に基づいて医療を実践する熱意を持つ
- コミュニケーション能力に優れる
- 多様化する社会の要求に対して高い倫理観と柔軟性を持って対応できる

1. 募集人員

医療薬学専攻 博士課程（第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅲ期）計 3 名（一般入学試験・社会人入学試験）

本研究科では、「一般コース」又は「がん医療重点コース」を選択できます。

「一般コース」は、各自が設定した研究テーマを深く探求し、医療現場における臨床的課題や地域医療における諸問題を解決できる高度な専門性と優れた研究能力を高めることを目標としています。

また、「がん医療重点コース」は、大学病院や地域中核病院等と提携して、がん治療の最前線を経験することで、がん専門医療人（がんプロフェSSIONナル）としての専門性を高めることを目標としています。

2. 出願資格

本研究科に出願できる者は、出願までに志望する分野の研究指導教員と事前相談を行い、かつ次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 6年制薬学教育課程を卒業した者又は卒業予定の者。
- (2) 薬剤師の資格を有し、大学院博士前期課程もしくは修士課程を修了した者。
- (3) 薬剤師の資格を有し、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すると認められる者。

（留意事項）

- ・ 出願資格 (1) の志願者については、薬剤師国家試験に合格していない場合は入学を取り消す。
- ・ 出願資格 (3) の志願者については、入学時に薬剤師として2年間以上の実務経験が必要である。出願資格審査申請書及び薬剤師研修歴・研究業績等報告書を提出し、事前審査を受けること。結果は本人宛に郵送にて通知します。

事前審査	期・種別	提出締切日	結果送付	提出先
出願資格審査申請書 薬剤師研修歴・ 研究業績等 報告書	第Ⅰ期 一般・社会人	2022年 7月1日(金)	2022年 8月1日(月)	薬学部事務室
	第Ⅱ期 一般・社会人	2022年 12月6日(火)	2023年 1月6日(金)	
	第Ⅲ期 一般・社会人	2023年 1月19日(木)	2023年 2月6日(月)	

3. 試験に係る日程

専攻・課程	期・種別	出願期間※	試験日
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	2022年 8月22日(月)～9月2日(金)	2022年 9月14日(水)
	第Ⅱ期 一般・社会人	2023年 1月24日(火)～2月3日(金)	2023年 2月15日(水)
	第Ⅲ期 一般・社会人	2023年 2月15日(水)～2月22日(水)	2023年 3月4日(土)

※出願期間中の窓口受付時間は9時から16時までとする。ただし、土曜・日曜・祝日は受付を行わない。
郵送による場合は「レターパック」を使用し、出願締切日16時必着とする。

4. 出願手続

(1) 検定料 30,000円

- ・所定の用紙を使用し、出願締切日の15時までに、金融機関窓口から電信扱いで納入すること。
- ・一旦納入した検定料は理由の如何を問わず返還しない。

(2) 諸注意

- ・身体に障がいがあり、受験に際し特別の配慮を必要とする志願者は、出願開始日の1か月前までに申し出ること。
- ・日本国外から日本国籍を有しない者が出願する場合は、出願期間にかかわらず事前に出願書類の提出を求める場合があるので、早めに問い合わせること。

(3) 出願書類等

- ・下表の書類を持参・又は郵送（「レターパック」を使用）すること。

提出書類	摘 要	一 般		社 会 人
		一 般	卒 業 予 定 者	
イ 入学願書	本学所定の用紙 別表1の「研究指導教員」を参照すること。	○	○	○
ロ 薬剤師免許証のコピー		○	—	○
ハ 受験者写真票等	本学所定の用紙	○	○	○
ニ 最終出身大学の卒業(見込)証明書 又は修了(見込)証明書	厳封のこと。	○	○	○
ホ 最終学歴の成績証明書	厳封のこと。	○	○	○
ヘ 志望理由書	本学所定の用紙	○	○	○
ト 承諾書	出願時に在職中(常勤)の者は、所属長の「承諾書」を提出すること。	—	—	○
チ 薬剤師研修歴・研究業績等報告書	本学所定の用紙 *期間にかかわらず常勤の実務経験がある場合は提出。 *事前審査で提出済の場合は不要。	○*	—	○
リ 検定料振込控(写)	所定の用紙を使用し、30,000円を振込後、本人控えを複写して提出。	○	○	○

※出願書類及び記載内容に不備がある場合は受理することができない場合がある。なお、電話での確認や対応が可能な記載不備等については、連絡先として記載された電話番号に問い合わせをすることがある。
※一旦受付けた出願書類は返還しない。また、受理できなかった出願書類等は本学が責任をもって処分する。

(4) 事前面談

- ・出願を希望する者は、出願前に必ず希望する分野の研究指導教員（別表1）と相談すること。
なお、教員との連絡がつかないとき、又は教員が不明の場合は、薬学部事務室まで連絡すること。

(5) 出願書類の提出先及び問い合わせ先

〒790-8578 松山市文京町4番地2 松山大学薬学部事務室
TEL 089-926-7193 E-mail: mu-yakugaku@matsuyama-u.jp

5. 選考方法

- ・選考は以下の試験結果及び出願書類を総合して行う。

専攻・課程	試験科目	試験時間
医療薬学専攻 (博士課程)	小論文（医療薬学に関するもの）	9:30～11:10（100分）
	面接及び薬学に関する口頭試問	11:30～

6. 試験場所

松山大学 松山市文京町4番地2（試験会場は受験票にて案内する）

7. 受験上の注意事項

- (1) 各試験において、試験開始時刻の10分前には指定の教室に集合すること。
- (2) 受験に際しては、必ず受験票を持参すること。
- (3) 大学内へ自動車で乗り入れることはできない。

8. 合格発表

専攻・課程	期・種別	合格発表日時
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	2022年 9月23日(金) 10時
	第Ⅱ期 一般・社会人	2023年 2月24日(金) 10時
	第Ⅲ期 一般・社会人	2023年 3月10日(金) 10時

※合格者については、学内9号館薬学部掲示板に掲示するとともに、合格通知書を本人宛に送付する。

9. 入学手続

(1) 入学手続期間

専攻・課程	期・種別	入学手続期間
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	2022年 9月23日(金)～10月13日(木) 16時【必着】
	第Ⅱ期 一般・社会人	2023年 2月24日(金)～3月7日(火) 16時【必着】
	第Ⅲ期 一般・社会人	2023年 3月10日(金)～3月22日(水) 16時【必着】

(2) 学費の納付（金額については「10. 納付金」を参照）

専攻・課程	期・種別	納付方法
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	通知する金額の入学金を2022年10月13日(木)15時までに所定の用紙で金融機関窓口から電信扱いで納入すること。在学科・実験実習料については、のち(2月下旬)に通知する金額の前期分在学科・実験実習料を2023年3月7日(火)15時までに所定の用紙で金融機関窓口から電信扱いで納入すること。
	第Ⅱ期 一般・社会人	通知する金額の入学金及び前期分在学科・実験実習料を2023年3月7日(火)15時までに所定の用紙で金融機関窓口から電信扱いで納入すること。
	第Ⅲ期 一般・社会人	通知する金額の入学金及び前期分在学科・実験実習料を2023年3月22日(水)15時までに所定の用紙で金融機関窓口から電信扱いで納入すること。

※一旦納入した入学金は、理由の如何を問わず返還しない。在学科・実験実習料は、所定の期日までに入学辞退を届け出た場合、又は入学取り消しとなった場合は返還する。〔入学辞退届を郵送する場合は、簡易書留にて2023年3月31日(金)(消印有効)までに、直接持参する場合も2023年3月31日(金)(土・日・祝日を除く8時30分から17時)までに薬学部事務室へ提出すること。〕

(3) 提出書類

住民票又は住民票記載事項証明書<原本>	1通(2023年2月以降の証明書日付があるもの)
カラー写真	2葉(1か月以内に撮影したもの・サイズ2.5cm×2.5cm)
誓約書・同意書、保証書	本学所定の用紙
卒業証明書もしくは修了証明書	1通 出願時「見込」の者は、2023年3月22日(水)までに提出すること。

※提出書類の詳細については、合格通知の際、別途案内する。

10. 納付金

2023年度の納付金額は未定である。(下表は2022年度実績)

	学外出身者	本学学部出身者
入 学 金	126,000 円	72,000 円
在学科(年額)	700,000 円 (納付は、前期 350,000 円、後期 350,000 円の分納とする。)	
実験実習料(年額)	200,000 円 (納付は、前期 100,000 円、後期 100,000 円の分納とする。)	

・委託徴収金

温山会終身会費 年額 5,000 円を4年間に渡り、委託徴収する。(本学出身者を除く)

温山会とは、松山大学各学部、大学院、短期大学と、その前身である松山高等商業学校、松山経済専門学校、松山商科大学の卒業生を正会員とする本学の同窓会。

11. 長期履修制度について

・標準修了年限(4年)で修了することが困難な場合、長期履修制度(4年間の在学科で5~8年間履修)を願い出ることができる。詳細については、問い合わせのこと。

12. その他

(1) 奨学金制度

- ・日本学生支援機構奨学金制度、松山大学奨学金制度等に応募することができる。

(2) 個人情報の取扱いについて

- ・住所等の個人情報については、厳重な管理の上、本学からの連絡や文書等送付の場合のみ使用する。
詳細は、松山大学ホームページ (<https://www.matsuyama-u.ac.jp>) 個人情報保護に関する基本方針を参考にすること。

問い合わせ先
松山大学 薬学部事務室
TEL (089)926-7193
FAX (089)926-7162
E-mail: mu-yakugaku@matsuyama-u.jp

(別表1)

松山大学大学院 医療薬学研究科医療薬学専攻 各分野の研究テーマ

領域	専門分野	研究指導教員	研究テーマ
最適治療と実践薬学領域	臨床薬学	高取 真吾 教授	1. 抗がん剤により誘発される末梢神経障害に対する予防法の確立
			2. 神経成長因子による抗腫瘍効果とそのメカニズム解明
			3. 循環器・炎症性疾患と大腸血管床もしくは腸間膜動脈血管床における血管調節機構の変化
		武智 研志 准教授	1. てんかん・精神障害・自閉症に対する治療法およびメカニズムの解明に関する研究
			2. 医療ビッグデータを用いた薬剤性副作用の予防法に関する研究
			3. リアルワールドデータを用いた臨床現場での薬物治療法の確立
		渡邊 真一 准教授	1. がん薬物療法／放射線療法時に生じる口腔粘膜炎症および消化管粘膜炎症の治療に関する研究
			2. 新規粘膜炎症モデル開発に関する研究
			3. 医療現場において生じる臨床課題解決に向けた研究
	天然医薬分子開発学	天倉 吉章 教授	1. 生薬・漢方薬等天然由来素材の品質・有効性・安全性の評価に関する研究
		2. 現代医療への適応を指向した生薬・漢方薬の育薬的研究	
	好村 守生 准教授	1. 天然由来資源の成分精査, 生物活性探索による機能開発およびそれらの臨床応用を志向した基礎開発に関する研究	
		2. 天然由来食品素材の機能性に関する研究	
	薬品物理化学	山内 行玄 准教授	1. 難水溶性薬物の新規可溶化法の研究
			2. 長時間薬物放出制御剤の開発
			3. 生体適合性を有する機能性高分子素材の開発
	製剤設計学	坂本 宜俊 教授	1. 直接粉末圧縮法による高機能性錠剤の調製に関する研究
			2. 乾式コーティング法による機能性粒子の調製とその応用に関する研究
3. 新規機能性素材の固形製剤調製への応用に関する研究			
中村 承平 准教授		1. 種々の添加剤を用いた新規固形製剤の調製と物性評価に関する研究	
		2. 固形製剤設計のための製造工程の最適化に関する研究	
衛生薬学	舟橋 達也 教授	1. 抗生物質多剤耐性が問題となっている日和見感染菌における鉄獲得機構の解析	
		2. 食中毒細菌における鉄獲得機構の解析	
	田邊 知孝 准教授	1. 病原細菌の栄養飢餓ストレスに対する応答機構の解析	
		2. 病原細菌の環境適応戦略や病原性発揮に関わる遺伝子の転写及び転写後制御機構の解析	
	長岡 憲次郎 講師	1. 健康増進を目的とした機能性表示食品成分の有効性に関する研究	
		2. ヒト集団及び動物モデルにおける疾患の発症・重症化予測に関連する因子の探索	

(別表1)

松山大学大学院 医療薬学研究科医療薬学専攻 各分野の研究テーマ

領域	専門分野	研究指導教員	研究テーマ
疾病と薬の分子基盤領域	薬理学	中島 光業 教授	1. 健康寿命の延伸に資する化合物に関する研究 2. 精神・神経疾患モデルマウスの病態解析
		奥山 聡 准教授	1. 天然由来化合物の生活習慣病関連中枢神経機能障害病態モデル動物における作用解析 2. 天然由来化合物の精神疾患または神経変性疾患関連病態モデル動物における作用解析
	分子神経科学	小林 三和子 准教授	1. 細胞内の小胞輸送の異常がもたらす神経細胞機能の変化 2. 大脳皮質の抑制性ニューロンの生存維持・機能に対する神経特異的遺伝子の役割
	創薬有機化学	北村 正典 教授	1. 官能基選択的な新奇有機反応の開発 2. ホスト-ゲスト化学を基盤とした機能性分子の創成
		西條 亮介 准教授	1. 感染症治療薬の創製を目指した新規有機反応の開発研究 2. 新規有機反応を利用した機能性分子の開発研究
	医療分析化学	明樂 一己 教授	1. 内因性代謝物の測定(メタボノミクス)による病態解析および薬効・毒性評価 2. ¹³ C 標識体を基質とする呼気試験あるいは安定同位体トレーサー法の開発 3. 医薬品の分析法の開発と臨床応用
		見留 英路 准教授	1. 呼気試験等に向けた ¹³ C 標識体の合成供給法の開発および新たな臨床検査法への応用 2. 有用な分析用試薬の開発および薬学研究・臨床に向けた応用
	生物物理化学	奈良 敏文 准教授	1. 受容体のシグナル伝達分子機構の解析 2. 受容体を標的とする化合物の新規スクリーニング系の開発
		田母神 淳 准教授	1. 微生物の光受容タンパク質をモデル系とした膜タンパク質の分子機構解明のための基礎研究 2. 微生物型光受容タンパク質をツールに用いた新規光治療法の開発など臨床に向けた応用研究
	病態生化学	中西 雅之 准教授	1. 翻訳後修飾に関わる酵素の同定と調節機構の解明 2. 細胞内タンパク質輸送機構に及ぼす翻訳後修飾の影響の解析
	理論薬品作用学	畑 晶之 准教授	1. 薬物代謝の理論化学的予測法の開発 2. 薬物相互作用に関する研究 3. 薬剤耐性菌による抗菌薬不活化機構に関する研究
	感染症学	玉井 栄治 教授	1. 溶菌酵素の大量発現系の構築 2. 溶菌酵素の精製及び結晶化とX線構造解析 3. 溶菌酵素変異体を用いた構造と機能の関係解析
		関谷 洋志 講師	1. 溶菌酵素の菌種特異的分子メカニズムの解析 2. 新規合成化合物の作用メカニズムに関する研究

(別表2)

松山大学大学院 医療薬学研究科医療薬学専攻 授業科目と担当教員

一般コース

科目区分		授業科目	専任教員等の配置
専門科目	(A群) 最適治療と実践薬学領域	天然物医薬品評価科学特論	天倉吉章、好村守生
		製剤設計学特論	山内行玄、坂本宜俊、中村承平
		環境衛生薬学特論	舟橋達也、田邊知孝、長岡憲次郎
		腫瘍学特論	山口 巧
		臨床薬理学特論	高取真吾、武智研志、渡邊真一
		病院薬剤学特論	田中 守 (愛媛大学医学系研究科) 飛鷹範明 (愛媛大学医学系研究科)
		医療倫理学特論	山田富秋 (社会学研究科)
		医療マネジメント特論	東淵則之 (経営学研究科)
	(B群) 疾病と薬の分子基盤領域	感染症薬学特論	玉井栄治、中西雅之、関谷洋志
		分子神経科学特論	野元 裕、小林三和子
		薬物作用解析学特論	中島光業、奥山 聡
		医薬分子化学特論	北村正典、西條亮介
		医療分析化学特論	明樂一己、見留英路
		分子生命科学特論	奈良敏文、田母神淳、畑 晶之
特別研究	薬学特別研究	明樂、天倉、北村、坂本、高取、玉井、中島、舟橋、奥山、小林、西條、武智、田邊、田母神、中西、中村 _承 、奈良、畑、見留、山内、好村、渡邊、関谷、長岡	
基礎科目	科学英語特論 I A	明樂、北村、奥山、小林、田母神、中西、畑	
	科学英語特論 I B	野元、玉井、中島、西條、奈良、見留、長岡	
	科学英語特論 I C	天倉、坂本、武智、田邊、山内、渡邊	
	科学英語特論 I D	舟橋、高取、山口、中村 _承 、好村、関谷	
	科学英語特論 II	明樂、天倉、北村、坂本、高取、玉井、中島、舟橋、奥山、小林、西條、武智、田邊、田母神、中西、中村 _承 、奈良、畑、見留、山内、好村、渡邊、関谷、長岡	
特別研修	最適治療と実践薬学領域研修	天倉、坂本、高取、舟橋、武智、田邊、中村 _承 、山内、好村、渡邊、長岡	
	疾病と薬の分子基盤領域研修	明樂、北村、玉井、中島、奥山、小林、西條、田母神、中西、奈良、畑、見留、関谷	
	病院研修 A	愛媛大学医学部附属病院薬剤部	

・開講科目及び担当教員は、諸事情により変更することがある。詳細については問い合わせること。

(別表2)

松山大学大学院 医療薬学研究科医療薬学専攻 授業科目と担当教員

がん医療重点コース

科目区分	授業科目	専任教員等の配置	
専門科目	(A群) 最適治療と実践薬学領域	天然物医薬品評価科学特論	天倉吉章、好村守生
		製剤設計学特論	山内行玄、坂本宜俊、中村承平
		環境衛生薬学特論	舟橋達也、田邊知孝、長岡憲次郎
		腫瘍学特論*	山口 巧
		臨床薬理学特論	高取真吾、武智研志、渡邊真一
		がん医療薬学特論*	渡邊真一、武智研志、 村上通康(松山赤十字病院)、 飛鷹範明(愛媛大学医学系研究科)
		病院薬剤学特論	田中 守(愛媛大学医学系研究科) 飛鷹範明(愛媛大学医学系研究科)
		医療倫理学特論	山田富秋(社会学研究科)
		医療マネジメント特論	東渕則之(経営学研究科)
	(B群) 疾病と薬の分子基盤領域	感染症薬学特論	玉井栄治、中西雅之、関谷洋志
		分子神経科学特論	野元 裕、小林三和子
		薬物作用解析学特論	中島光業、奥山 聡
		医薬分子化学特論	北村正典、西條亮介
		医療分析化学特論	明樂一己、見留英路
		分子生命科学特論	奈良敏文、田母神淳、畑 晶之
	特別研究	薬学特別研究	明樂、天倉、北村、坂本、高取、玉井、 中島、舟橋、奥山、小林、西條、武智、 田邊、田母神、中西、中村 _承 、奈良、畑、 見留、山内、好村、渡邊、関谷、長岡
基礎科目	科学英語特論 I A	明樂、北村、奥山、小林、田母神、中西、 畑	
	科学英語特論 I B	野元、玉井、中島、西條、奈良、見留、 長岡	
	科学英語特論 I C	天倉、坂本、武智、田邊、山内、渡邊	
	科学英語特論 I D	舟橋、高取、山口、中村 _承 、好村、関谷	
	科学英語特論 II	明樂、天倉、北村、坂本、高取、玉井、 中島、舟橋、奥山、小林、西條、武智、 田邊、田母神、中西、中村 _承 、奈良、畑、 見留、山内、好村、渡邊、関谷、長岡	
特別研修	最適治療と実践薬学領域研修	天倉、坂本、高取、舟橋、武智、田邊、 中村 _承 、山内、好村、渡邊、長岡	
	疾病と薬の分子基盤領域研修	明樂、北村、玉井、中島、奥山、小林、 西條、田母神、中西、奈良、畑、見留、 関谷	
	病院研修B*	愛媛大学医学部附属病院薬剤部	

*必修科目

・開講科目及び担当教員は、諸事情により変更することがある。詳細については問い合わせること。